

広島県経済の動向

令和8年10月20日

商 工 労 働 局

目 次

1	経済動向の概要	1
	（１）国内経済の動向	
	（２）広島県経済の動向	
2	県内主要製造業の生産動向	3
	（１）鉄鋼	
	（２）自動車	
	（３）造船	
	（４）一般機械	
	（５）電気機械	
3	中小企業の動向	5
	（１）概況	
	（２）景況感・景況感の変化	
	（３）前月から変化のあった主な業種	
4	企業倒産状況	7
	（１）概況	
	（２）業種別	
	（３）原因別	
	（４）今後の見通し	
5	最近の雇用失業情勢	8
	（１）県内の有効求人・求職の動向	
	（２）県内の新規求人・求職の動向	
	（３）県内の人員整理の状況	
	（４）完全失業率の状況（全国・県内）	

（注）「広島県経済の動向」は、国、その他機関等から発表される各種指標を編集、加工し、とりまとめたものです。

1 経済動向の概要

(1) 国内経済の動向

ア 概要

指 標	令和8年		
	7月	8月	9月
基調判断	景気は、穏やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある	景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢や自然災害の影響を注視する必要がある	
輸 出	このところ持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	
生 産	横ばいとなっている		総じてみれば持ち直しの動きがみられる
設備投資	持ち直している		
雇用情勢	改善の動きがみられる		
個人消費	持ち直しの動きがみられる		
住宅建設	弱含んでいる	総じて横ばいとなっている	
消費者物価	緩やかに上昇している		
企業収益	改善の動きがみられるが、中東情勢の影響を注視する必要がある	改善しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある	

イ 先行き

雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢や自然災害の影響を注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響などに注意する必要がある。

【内閣府「月例経済報告」（令和8年9月29日公表）】

(2) 広島県経済の動向

ア 概要

指 標	令和8年		
	6 月	8 月	9 月
基調判断	緩やかな回復基調にある		
輸 出	緩やかに持ち直している	緩やかに回復している	
生 産	緩やかに持ち直している	緩やかに回復している	
設備投資	増加している		
雇用・所得	緩やかに改善している		
個人消費	緩やかな回復基調にある		
住宅投資	下げ止まっている		
消費者物価 (除く生鮮食品、広島市)	1 %台半ばのプラスとなっている		1 %台後半のプラスとなっている

イ 県内の経済の先行き

今後の中東情勢の展開や原油価格の動向などが、企業の生産や賃金・価格設定行動、個人消費の動向など、県内の金融経済情勢に与える影響を注視していく必要がある。

【日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」（令和8年10月1日公表）】

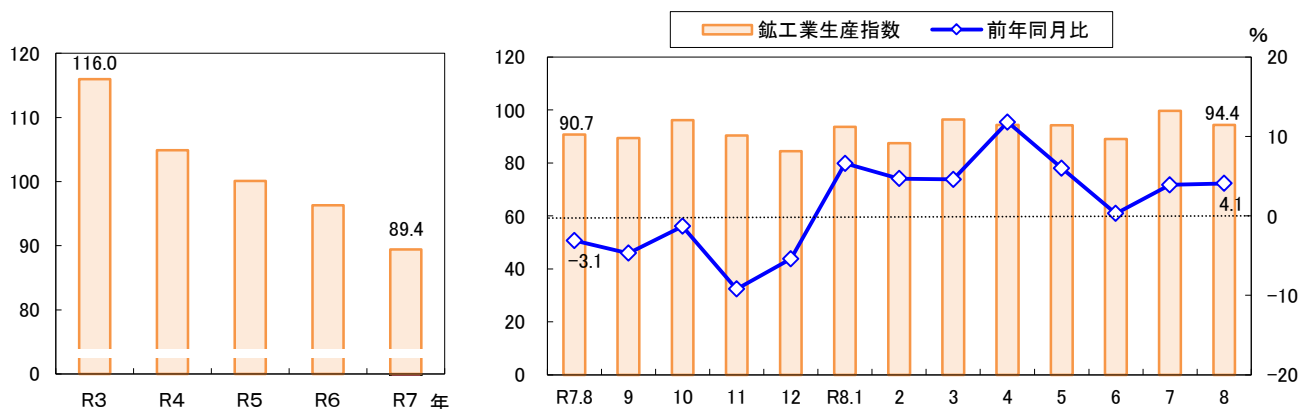
2 県内主要製造業の生産動向

(1) 鉄鋼（令和8年8月）

8月の鉄工業生産指数（鉄鋼業、原指数、速報値、令和2年＝100）は94.4で、前年同月比で4.1%増加となっている。

鉄工業生産指数(鉄鋼業)(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】

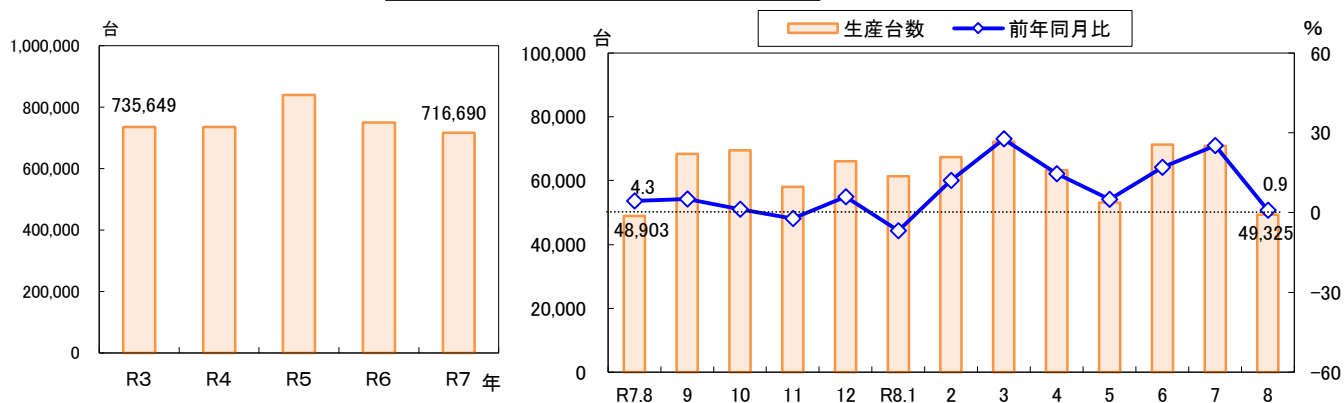


(2) 自動車（令和8年8月）

8月の国内生産台数は49,325台で、前年同月比で0.9%増加となっている。

自動車生産台数(年別、月別・前年同月比)

【マツダ(株)】

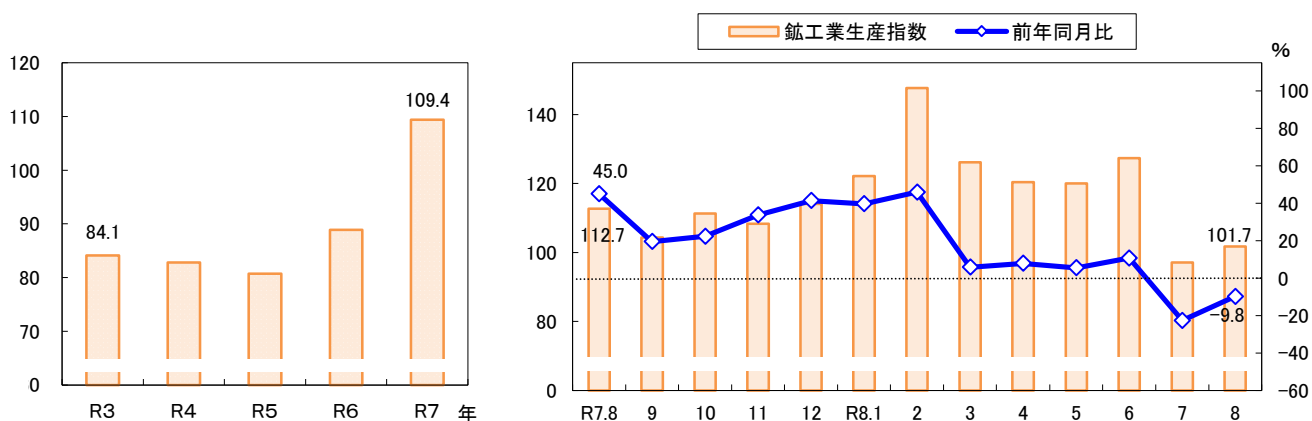


(3) 造船（令和8年8月）

8月の鉄工業生産指数（造船部門、原指数、速報値、令和2年＝100）は101.7で、前年同月比で9.8%減少となっている。

鉄工業生産指数(造船部門)(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】

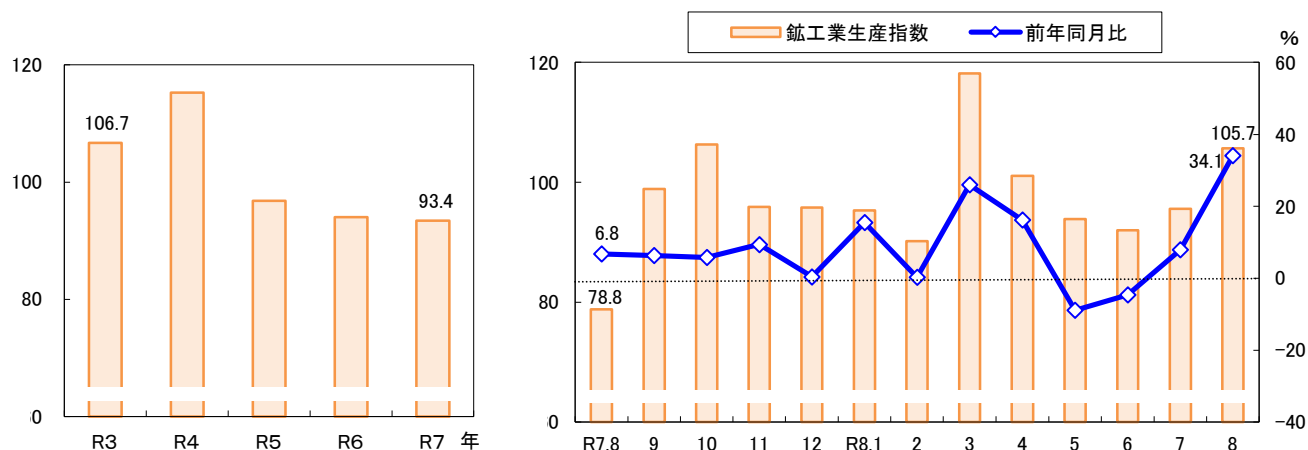


(4) 一般機械（令和8年8月）

8月の鉱工業生産指数（一般機械工業（総合）、原指数、速報値、令和2年＝100）は105.7で、前年同月比で34.1%増加となっている。

鉱工業生産指数（一般機械工業（総合））（年別、月別・前年同月比）

【県統計課】

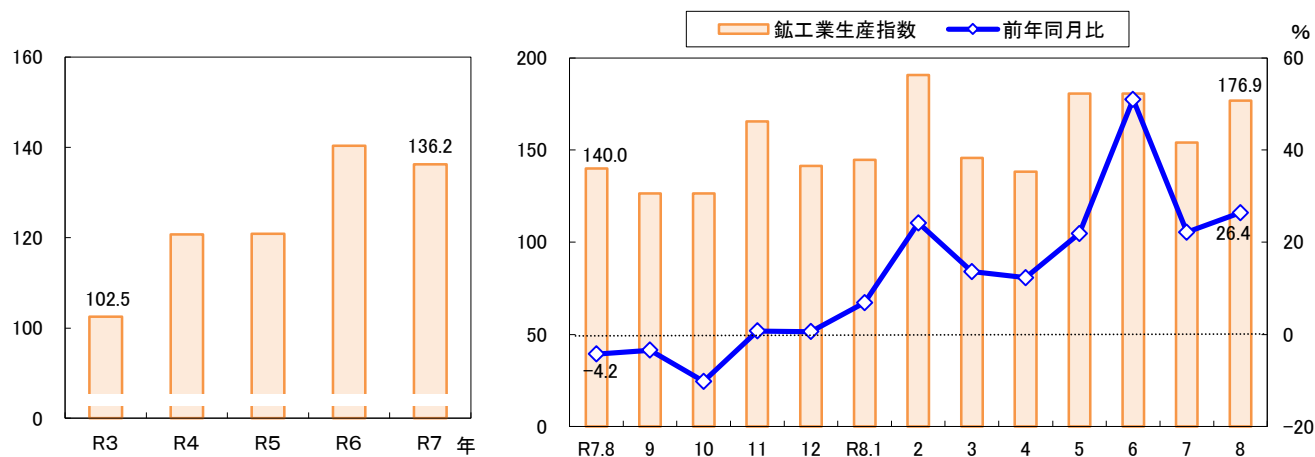


(5) 電気機械（令和8年8月）

8月の鉱工業生産指数（電気機械工業（総合）、原指数、速報値、令和2年＝100）は176.9で、前年同月比で26.4%増加となっている。

鉱工業生産指数（電気機械工業（総合））（年別、月別・前年同月比）

【県統計課】



3 中小企業の動向（令和8年8月）

【広島県中小企業団体中央会（令和8年9月15日時点）】

（1）概況

県内の多くの中小企業においては、原材料費や光熱費、人件費、資材価格等の上昇が続く中、価格転嫁が思うように進まないケースが見られるほか、猛暑の影響による稼働率や消費の低下、人手不足の深刻化などもあり、厳しい経営状況が窺える。先行きについても、為替変動や金利上昇に伴う資金調達コストの増加など懸念材料は多く、回復の見通しは依然として不透明な状況にある。

自動車関連業種では、8月の国内自動車販売台数は前年同月比+2.1%と5か月連続増加しており、マツダ車は前年同月比+14.4%と3か月連続の増加となった。

また、木材業界では、8月の全国新設住宅着工戸数は63,974戸で前年同月比+6.1%となり、県内では1,164戸で、前年同月比+4.5%となった。

※マツダ車に関する記載はマツダ（株）が発表する「8月の生産・販売状況について」に基づく

※木材業界に関する記載は、国土交通省が公表する「建築着工統計調査報告」及び広島県がホームページに掲載する「新設住宅着工戸数」の8月分のデータに基づく

（2）景況感・景況感の変化

業種	7月の景況感	8月の景況感
食料品	普通	やや悪い
繊維・衣服	普通	普通
木材	やや悪い	やや悪い
家具	やや悪い	やや悪い
印刷	やや悪い	やや悪い
化学	やや悪い	やや悪い
プラスチック製品	普通	普通
土石製品	悪い	悪い
鉄鋼（铸件）	やや悪い	やや悪い
金属製品	やや悪い	やや悪い

業種	7月の景況感	8月の景況感
一般機械器具	普通	普通
電気機械器具	普通	やや好況
自動車部品	やや好況	やや好況
造船	やや好況	やや好況
建設	普通	普通
トラック輸送	やや悪い	やや悪い
卸売	やや悪い	やや悪い
小売	やや悪い	やや悪い
情報サービス	普通	普通

（単位：業種）

景況感	7月	8月	増減数
好況	0	0	0
やや好況	2	3	1
普通	7	5	▲ 2
やや悪い	9	10	1
悪い	1	1	0

(3) 前月（7月）から変化のあった主な業種

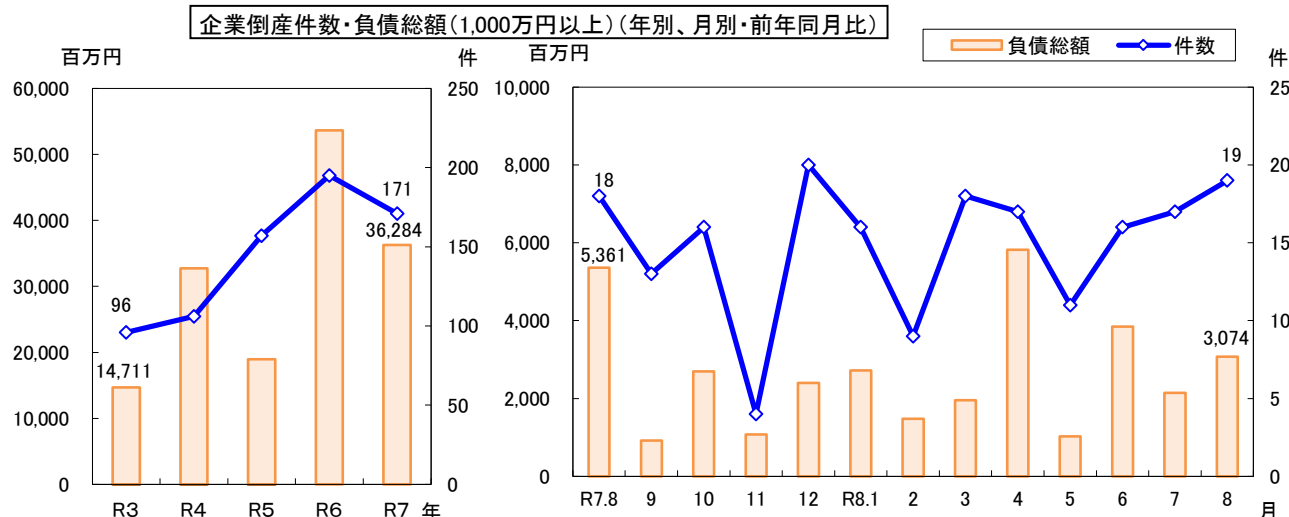
業種	7月の 景況感	8月の 景況感	変化の理由・状況
食料品	普通	やや悪い	・ 当月の出荷量は前月比▲30.2%、前年同月比▲8.0%となった。売上高は前月比▲27.3%、前年同月比▲4.6%となった。 【中国醤油醸造協同組合】 ・ 原材料費や光熱費、人件費などの経費が全般的に高騰している。他の都市部では、訪日外国人観光客の増加による消費拡大の効果が報告されているが、当地域では同様の効果は確認できていない。 【広島県東部菓子商工業協同組合】
電気機械 器具	普通	やや好況	・ A I 関連市場が好調であることから、半導体のパッケージ基板を製造する装置の需要が高まっている。 【広島県東部機械金属工業協同組合】

4 企業倒産状況（令和8年8月）

（1）概況

負債総額1,000万円以上の倒産は、件数が19件、総額30億7,400万円であった。
前月比では、件数が2件増、負債総額は9億3,000万円増加した。
前年同月比では、件数は1件増、負債総額が22億8,700万円減少した。
大型倒産（負債総額10億円以上）は0件であった。

区 分	令和8年6月	令和8年7月	令和8年8月
件 数 (前年同月比)	16件 (20.0%減)	17件 (5.6%減)	19件 (5.6%増)
負債総額 (前年同月比)	3,850百万円 (26.8%減)	2,144百万円 (80.4%減)	3,074百万円 (42.7%減)



（2）業種別

件数は、サービス業7件、建設業が5件、卸・小売業4件、製造業2件、運輸業が1件となった。
負債総額は、サービス業、建設業、運輸業、卸・小売業、製造業の順となった。

（3）原因別

原因別では、販売不振が17件、既往のシワ寄せ（特別清算開始決定・破産開始決定）2件であった。

（4）今後の見通し

令和8年8月度の倒産件数は19件、負債総額30億7,400万円で、件数は前年同月比では2ヶ月ぶりの増加、前月比は、3ヶ月連続の増加、負債総額は前年同月比は4ヶ月連続の減少、前月比は2ヶ月ぶりの増加となった。

業歴別倒産状況では30年以上が12件、20年以上が3件、10年以上が2件となり、業歴10年以上の倒産が全体の89.5%となり、前月7月度では業歴10年以上の倒産が全体の88.2%となり、業歴の長い企業の倒産が続いている。

原因別にみると販売不振が17件で最多となり、既往のシワ寄せは2件、売掛金等回収難は0件で、これらを合計した不況型倒産は19件で全体の100%を占めた。

そのような中、新型コロナウイルスを要因とした倒産は8月度19件中5件発生し、これまでの累計は341件（負債総額1,000万円未満、弁護士一任・準備中を除く）となった。近時、増加傾向である代表者の急逝を要因とした倒産について発生は無く、（株）備九運輸は原油高、人件費高騰が要因で倒産した。

令和8年に入っても、イラン情勢の緊迫化やホルムズ海峡の目詰まり懸念を背景としたナフサ供給不安、樹脂・包材などの先行値上げ、在庫の急速な低下、一部企業の受注停止、塗装材の深刻な不足に加え、関税問題や為替の乱高下が企業経営を強く圧迫している。とりわけ為替は一時1ドル＝163円95銭まで進む歴史的な円安局面を迎え、輸入コスト上昇を通じて国内物価を一段と押し上げた。

差別化された商品・サービスを有し、コスト増を適切に売価へ転嫁できる企業や、多角的なサプライチェーン管理体制を構築している企業は、こうした逆風下でも収益基盤を維持・拡大できている。しかし、価格転嫁力に乏しく、資金余力のない企業は、仕入価格の高騰、人件費負担の増加、金利上昇による資金調達コストの増大という三重苦、さらにはキャッシュフロー悪化にも晒され、市場からの脱落を余儀なくされる局面が増加している。

特に中小・零細企業では、賃上げを実施しても十分な利益を確保できず、“賃上げ疲れ”が資金繰り悪化に拍車をかけているほか、コロナ禍で積み上がった過剰債務を抱える企業では、新たな借入や借換え時に金利上昇の影響が直撃しやすい状況にある。今後も為替、中東情勢、物価、人件費、金利のいずれについても不確実性は高く、企業が生き残るための喫緊の課題は、「仕入先の分散・サプライチェーンの強靱化」「コスト上昇を織り込んだ適正な価格転嫁」「人材確保を見据えた生産性向上」、そして「金利上昇を前提とした厳格な資金繰り管理」である。徹底したコスト最適化と付加価値向上により収益力を確保できる企業と、対応が遅れる企業との二極化と市場再編は、今後さらに加速していく見通しである。

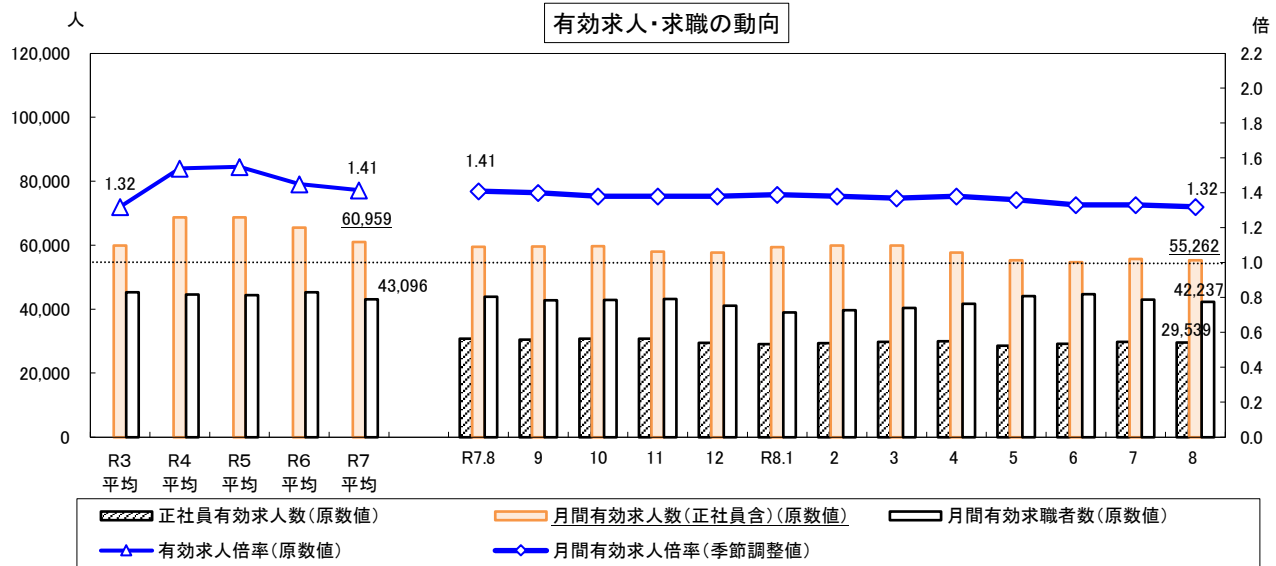
【（株）東京商工リサーチ（令和8年9月3日時点）】

5 最近の雇用失業情勢（令和8年8月）

(1) 県内の有効求人・求職の動向

区 分	令和8年6月	令和8年7月	令和8年8月
有効求人倍率〈季節調整値〉 (前月比)	1.33倍 (▲0.03ポイント)	1.33倍 (±0.00ポイント)	1.32倍 (▲0.01ポイント)
正社員有効求人倍率 (前年同月比)	1.16倍 (▲0.04ポイント)	1.20倍 (▲0.02ポイント)	1.21倍 (▲0.02ポイント)

【広島労働局】

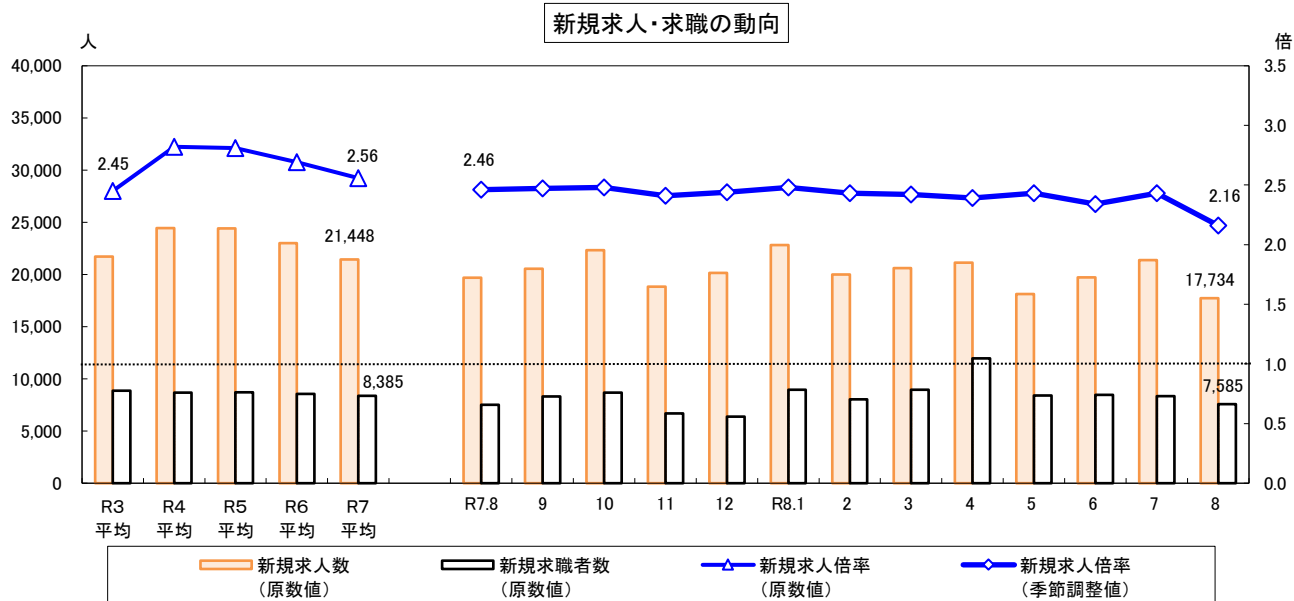


(注1) 正社員有効求人倍率は、正社員の有効求人人数をパートタイムを除く常用有効求職者数（派遣労働者や契約社員を希望する者も含む）で除して算出しているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる。
(注2) 正社員有効求人倍率は、季節調整されていない。
(注3) 季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。

(2) 県内の新規求人・求職の動向

区 分	令和8年6月	令和8年7月	令和8年8月
新規求人倍率〈季節調整値〉 (前月比)	2.34倍 (▲0.09ポイント)	2.43倍 (+0.09ポイント)	2.16倍 (▲0.27ポイント)

【広島労働局】

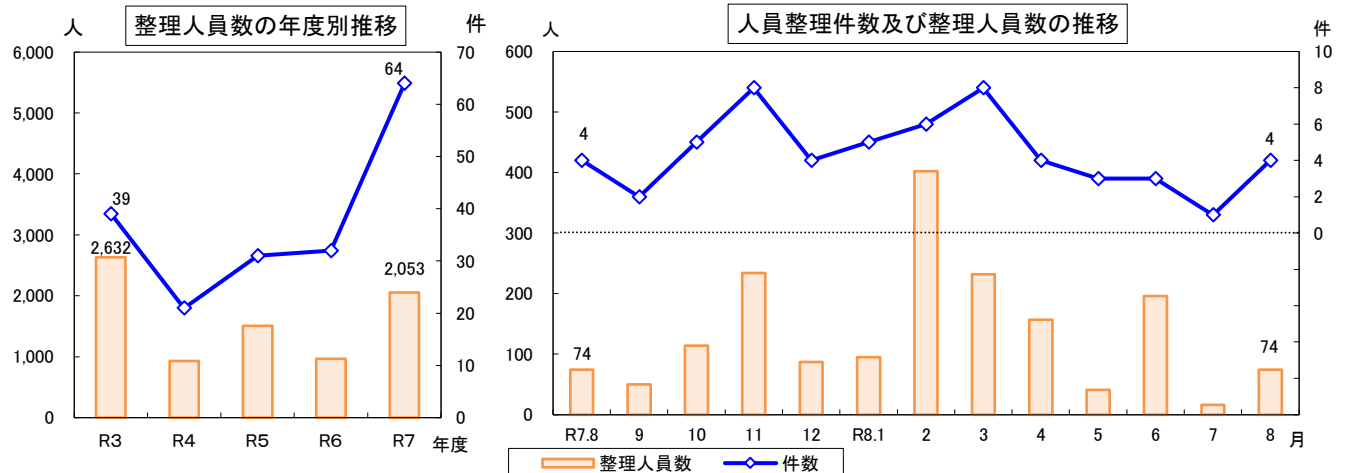


(注) 季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。

(3) 県内の人員整理の状況（整理人員10人以上）

区 分	令和8年6月	令和8年7月	令和8年8月
件数 (前年同月比)	3件 (±0件)	1件 (▲4件)	4件 (±0件)
整理人員 (前年同月比)	196人 (+151人)	16人 (▲77人)	74人 (±0人)

【広島労働局】

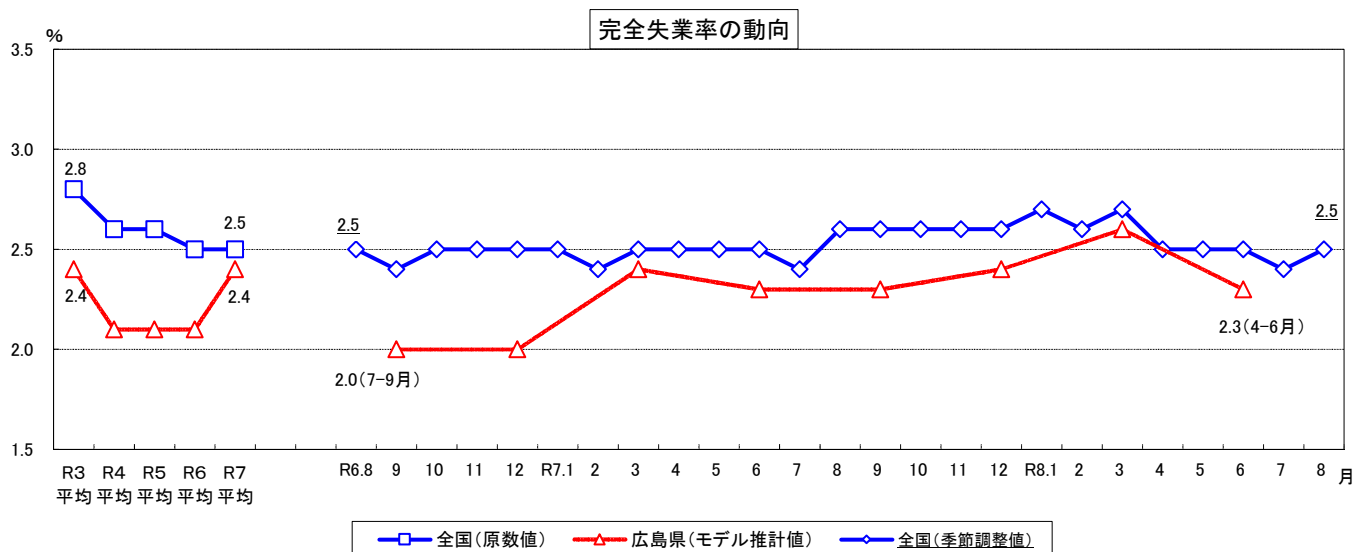


(4) 完全失業率の状況（全国・県内）

区 分	令和8年6月	令和8年7月	令和8年8月
全国完全失業者数〈原数値〉 (前年同月比)	178万人 (+2万人)	169万人 (±0万人)	180万人 (▲2万人)
全国完全失業率〈季節調整値〉 (前月比)	2.5% (±0.0ポイント)	2.4% (▲0.1ポイント)	2.5% (+0.1ポイント)

区 分	令和7年	令和8年	
	10～12月平均	1～3月平均	4～6月平均
広島県完全失業率 〈モデル推計値〉 (前年同期比)	2.4% (+0.4ポイント)	2.6% (+0.2ポイント)	2.3% (±0.0ポイント)

【総務省統計局】



※ 全国完全失業率の季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。

※ 広島県(モデル推計値)は、毎年1～3月期平均公表時に、新たな結果を追加して再計算を行い、前年までの四半期平均及び年平均結果を過去に遡って一部改定している。